こまざわ経済通信

発　行
駒澤大学経済学部
同　窓　会
〒154-8525
東京都世田谷区駒沢
1－23－1

第６回経済学部同窓会総会開催される
ホームカミングデーの懇親会にも参加

平成２３年１１月５日、第６回経済学部同窓会総会が開催されました。

大場やすのぶ同窓会会長の挨拶からはじまり、議長選出、事業報告、監査報告、事業計画、会則変更、役員選出、新役員挨拶と滞りなく議事が進行しました。来賓としてお招きした学長石井清純先生、経済学部部長百田義治先生より経済学部同窓会に対する激励のご挨拶があり、大学や経済学部の現状について説明がありました。

前回の総会に比べるとやや少ない出席者であったことは残念でしたが、逆に総会の最後に出席者からの要望で自己紹介や近況報告の機会がもうけられ、和気あいあいのうちに会を終えることができたのは幸いでした。次回総会にはさらに多くの会員の皆さまに出席いただけるように、会員増加と広報活動の強化に役員一同取り組む決意でおります。

総会終了後は同日開催のホームカミングデーの懇親会に合流しました。大学食堂の懇親会場に設けられた「商経学部・経済学部卒業生のコーナー」には多数の卒業生が集まり、懐かしい友人との歓談の輪がひろがりました。「経済学部同窓会のデスク」では研究誌『経済学論集』の無料配布や、「経済学部創立６０周年記念ＤＶＤ」の販売をおこないました。

毎年１０月開催のホームカミングデーでは，経済学部同窓会は卒業生の懇親をはかり、卒業生と経済学部の絆を強めるため活動しています。商経学部・経済学部のすべての卒業生に開かれたオープンな集まりですので、お誘いあわせのうえ是非お出でください。

今後も同窓会の趣旨を実現するための新しい企画を予定しております。会員の皆さまにおかれましても、経済学部同窓会、経済学部、駒澤大学の発展のために、いっそうのお力添えをお願い致します。

（本紙に総会で承認された事業報告書、監査報告書、新役員名簿を掲載しました。）

石井学長の挨拶

名誉教授シリーズ

一つの思い出と一つの断想

駒澤大学名誉教授　吉野　紀

１９７９年度の長期海外研修が認められたとき、The London School of Economics and Political Science（LSE）を研修先に選んだ一つの理由は、１９７４年８月にエリザベス女王の勅許を受けてDiamond卿を議長とする「所得と富の分配に関する王立委員会」が発足し、続々と分析結果を出し続けており（１９７９年までに１６分冊、四千ページに及ぶ）、LSEのA.R.Prest教授が関わりを持っていることを知ったことである。分配（格差）問題は、早くから私の研究対象の一つであったが、分配や格差の変移は単一の指標で捉えるには無理があり、分析の基盤にあたる観測データ自体も国あるいは資料毎に特有の癖、ないし個別の長・短所を持っている。所得は課税前か後か？　個人所得か家計所得か？　サンプル対象は勤労者か自営業を含むのか？　キャピタル・ゲインの捕捉率は？　等々の基礎概念をつかむには、現地に赴くに如かず、という訳である。Prest教授から歓迎する旨の返書を頂けたのは幸いであった。

もう一つの理由は、LSEがKarl　R.Popperのホーム・グラウンドだったことにある。同年の時点では既に名誉教授として退職（１９０２年生まれ）、爵位Sirを授与されており、直接謦咳に接することは叶わなかった。それでも、縁深しということか、LSEのブック・ショップには同教授の主要著作は一通り揃っていたように思う。

今の若い方々には、哲学者ポパーには馴染みが無いかもしれないが、最近『ブラック・スワン』を上梓したN.N.Talebが同著で、歴史上の事件の予測の限界を主張したポパーを改めて評価したことで再認知されたようである。また、著名なヘッジファンド総帥George　Sorosが、自ら資金基盤を支えてブダペストに開設した中央ヨーロッパ大学の講義で、ポパーを恩師と呼んでいることからも、この哲学者の名前が知られるようになったであろう。

「開かれた社会」（Open　Society）がポパーの希求するところであり、これを構築する目的でソロスは自らの資産を投じて旧ソ連圏、東欧にオープン・ソサイアティ財団を設けた。

抑圧された社会に対峙する開かれた社会（民主制）においてのみ暴力なき変革のための制度的枠組みが得られるというポパーの認識に与するとしても、近年の在り様に見られる民主制と資本主義経済制度とは決して仲が良くない。分配面では資本主義は稼得所得や購買力の平等をまったく保障していないが、民主体制の基本は平等な一人一票である。６０兆ドルと推計されるシャドーバンキング（影の銀行）資金が、代議制の故に選挙民の顔色を窺いつつ政治的決定力を喪失した世界をターゲットに浮遊し、利を求めて世界を駆け巡る。資本主義が経済過程のメイン・エンジンとして位置づける「市場」に大きな波乱要因を形づくっており、実物経済のメカニズムにも重大な損傷を及ぼしかねない。

こうした不安定な現実に対処するには、変化すべきはこれをすべからく果敢かつ迅速に変革する勇気と、社会が一体となった変革の意志とが、何よりも強く求められるであろう。

【謹　告】

会費の納入方法が変わります

第6回経済学部同窓会総会（平成23年11月5日開催）で会則第14条（会費）の改正が承認され、会費の納入方法が変更になりました。

従来は年会費2,000円を3年分まとめて一括納入（6,000円）しましたが、今後は毎年2,000円納入になります。

改正の趣旨は、同窓会に新たに入会する学生（現4年生）の経済的負担を軽減し、会員の増加をはかるためです。

会員の皆さまには、今後、毎年納入していただくことになりお手数をおかけしますが、ご理解のほどお願い申しあげます。

会費納入のお願い

現在、同窓会はきわめて深刻な財政危機に直面しております。同窓会の存続のために、会費納入にご協力くださいますよう切にお願い申しあげます。

なお今後は、会報「こまざわ経済通信」の送付は会費納入者に限定させていただくことになりました。

苦渋の決定でありますが、事情ご賢察のうえ、ご理解のほど重ねてお願い申しあげます。

◎郵便振替口座　　加入者名:駒澤大学経済学部同窓会　　口座番号:00190−1−614809

卒業生シリーズ

１９８１年駒澤大学経済学部商経学科卒業
（株）ダイドーリミテッド代表取締役社長　田口　正幸

私は１９７７年の春、幸運にも駒澤大学に入学することができました。一生懸命勉強するタイプの学生ではなく、成績もほめられたものではありませんでした。なんとか卒業することができたというところでしょうか。

しかし駒澤大学の学生時代に大切なことを学ぶことができました。友人とは毎日のように酒を酌み交わしながら夢を語り、人生を語り合っていたような気がします。授業では宗教学の講義で仏教、キリスト教の基礎を教わり、利他行の教えを学びました。他者、相手の立場に立った行い、他者が利する行いに心がけることは今でも私の座右の銘のひとつです。アルバイトに忙しい私は、授業も休みがちでしたが、近代経済学、当時は若手経済学者でありました浅野克巳教授のゼミでは、学ぶことの面白さ、大切さを教わりました。不勉強な私の突拍子のない質問にも丁寧に応えていただいたこと、本当に感謝しております。おかげ様で経済新書を読むことが身に付き、それが現在も日課となっています。課外ゼミでは会計学研究会に所属し、ここでも不勉強でありましたが、課外ゼミナール連合会においてはゼミ連の委員長として組織運営について生きた勉強をさせていただきました。先輩、同輩、後輩たちと夜な夜な組織のあり方や哲学めいた激論をしたことを懐かしく思い出します。この駒澤時代に、生きるということ、生かされているということ、そして働く心構えが養われたような気がしています。

１９８１年３月に卒業した私は、その年４月に大同毛織㈱（現 ㈱ダイドーリミテッド）に入社しました。大同毛織は高級紳士服地のミリオンテックスや手芸糸のパピーを手掛け、また、トラッドファッションのニューヨーカーやブルックスブラザーズ、小売専門店バークレーなどが当時拡大成長路線にありました。入社後はニューヨーカーのショップ販売員として十数年の販売現場、その後は労働組合の専従書記長、組合長として９年、中国に渡って工場生産現場を中心に９年間社業に励み、本年２０１１年６月に社長に就任し、「モノづくりを基盤に生きる」という決意、経営の方向性を定めたところです。

「歴史の峠」に立つ日米欧先進国経済、「国家財政破綻懸念」というこれまで経験したことのないような環境の中で、ダイドーリミテッドという会社が市場からその存続を許され、また、存在価値、意義のある会社であるためにはどうあるべきかを考えております。

夢と志のある会社、魅力と強さを備えた存在価値のある企業にするために、１０年後も元気なダイドーリミテッドの姿を描いております。

実現に向けて多くの困難が待ち受けておりますが、焦らず、腐らず、コツコツと真摯に実行してまいります。駒澤大学関係者の皆様、今後ともよろしくご指導をお願い申し上げます。

以　上

禅研究館（昨年4月）

懐かしいパオ

退職にあたって

経済学部教授　森　岡　　仁

私が経済学部に就職したのは１９６６年のことですから、今年で４６年が経過し定年退職の時期を迎えました。当時１万４千人余りだった駒澤大学の学生数は、今では１万６千人を超える規模に拡大しております。学生運動が活発な騒然とした社会情勢の６０年代でしたが、高度経済成長を謳歌する繁栄の時代でもありました。学生たちの就職活動も極めて順調であったように記憶しております。しかし近年における経済の低迷は、周知の通り学生たちの就職活動を直撃しておりまして、私の演習でも就職が決まらないまま卒業して行く学生の数が増えてきております。以前ですと一部上場企業に就職する学生は珍しくなかったし、１人で３つ４つの企業から内定をもらい、それでも飽き足らずに就職活動を続ける学生がいて、早く決めて学業に専念するよう注意を促したものですが、今ではそのようなケースは非常に少なくなりました。まだ就職の決まらない学生の心情を察して、演習での就職に関する話しはなるべく避けるようにしております。

このような悪い就職状況は、駒澤大学だけのものではないようです。過日、恒例になっている「今年の漢字」が発表され、２０１１年は圧倒的多数で「絆」が選ばれました。しかしあるニュース番組の中で、今年はどんな年であったか漢字１文字で表現するよう求められた１人の大学生が、即座に答えた漢字は「苦」であります。先の見えない就職活動の苦しさを表現しての１文字のようですが、私はこれら２文字を本校の学生と同窓会との関係に結び付けて、両者の「絆」がこれまで以上に強固になることを期待しております。就職活動を企業のＯＢ訪問から始める大学があると聞きますが、駒澤大学でも同窓会を通じてこのような先輩後輩の「絆」が今後益々強化され、３年生の段階から就職活動に振り回わされる学生の「苦」が少しでも和らげられることを、退職を機に切にお願いする次第であります。

ソフトボール大会2011

例年通り、１０月１５日の開校記念日に、経済学部同窓会後援のソフトボール大会が行われました。昨年と同様に試合直前までの暴風雨により大会の開催が危ぶまれる天気になりましたが、開始を３０分遅らせ雨が小降りになったところで第１試合目が始まりました。一時は、大会本部の判断で中止せざるを得ない状態といっても過言ではありませんでしたが、経済学部生の日ごろの行いが良いせいか、大会中は雨も降らず、順調に試合を行うことができました。

試合内容は、どこも接戦で見ごたえのあるものばかりでした。そして結果は、優勝候補の瀬戸岡ゼミが今年も連覇を成し遂げました。準優勝は松本ゼミ、３位は清水ゼミと石川祐二ゼミ、敢闘賞は岩波ゼミでした。閉会式では、表彰状が授与されました。

駒澤大学でソフトボール大会が行われるのは経済学部のみです。経済学部には、１学年につき約７００名の学生が所属していますが、授業以外の交流はほとんどありません。そのような中で本大会は経済学部の学生同士あるいは先生との良い交流の機会になっています。今年も新たな出会い・交流があったようです。スポーツでも勉学でも切磋琢磨していきたいとおもいます。

ゼ　ミ　紹　介

瀬戸岡ゼミ

被災地支援から発展途上国支援まで
ー社会貢献にまでつながったゼミ活動ー

前号の発行後２～３ヶ月、瀬戸岡ゼミは、さらに多彩な活動をくりひろげてきました。

ことしのわがゼミは、学年をまたがって５つのサブゼミを自主的に編成。４月以来それぞれ学習をつづけて、秋には日本学生ゼミナールの関東地区大会に出場し、半年間の成果を発表。そして全国大会に、夏休み明けに全国大会の中間発表会が札幌で開催され、わがゼミだけで５組が出場。ひとつのゼミでこれだけの数が出場したこと自体すでに日本最多。そのうち、２組が各部門で全国第１位、３組が同第２位に輝き、瀬戸岡ゼミの学力とプレゼンの圧倒的強さを日本中に見せつけました。

オータム・フェスティバルには、わがゼミは「ありやす商事」という店名で、豚汁、タコス、たこ焼きを出店し、みごと完売。東日本大震災の直接的被災者がゼミに２人いる（津波１人、原発事故１人）こともあって、総売り上げ約３０万円のうち純利益１３万円全額を被災地の福島県大熊町に直接おもむき寄付してきました。

支援の心はこれにとどまらず、発展途上国支援にもおよびました。大震災が契機となって寄付について徹底研究。その後、学食に寄付金つきメニューを提案、粘り強い努力の甲斐もあって受けいれられ、１２月には特別メニューが学食に登場。値段の一部が発展途上国に寄付されます。その額、日本では１食分の一部とはいえ、現地国では完全に１食分のフル価格に相当します。

若者の日本酒離れの進むなか、あらためて日本酒の魅力とは何だったのかを考えようと、われわれの世代の嗜好を徹底研究。その成果は、企業ともコラボして親子酒「今日は娘と乾杯」の開発にこぎつけ、販売にいたりました。商品となったものは、１１月３０日付『サンケイ新聞』に掲載されました。さらに女性をターゲットとした美容酒を、新年２月中旬発売を目標に開発中です。この活動については、フェースブック、ツイッターで情報発信をおこなっています。

昨年からはじまった経済学部スポーツ大会のフットサルの試合では２年連続で優勝、恒例のソフトボール大会では５年連続で優勝しました。

もうじき卒業する４年生は、口々に「とにかく楽しかった」、「楽しかったから、勉強にも、スポーツにも、あたたかい心をもつことにも頑張ってこられた」、「きつかったけれど、支えあう心がこのゼミに充満していて、ここまでやってこられた」、「この大人数がよくまとまっていることが、ひとつひとつ大きな成果になった」、「そのなかで成長してこられた」とゼミ活動を回顧しています。「受験に失敗してこの大学にきたけれど、もう一度大学生になる機会があるならば、迷わず、またこのゼミに入りたい」とも。

今年も厳しい選抜をくぐって３５人の１年生が入ってきました。２年生から４年生までの現役ゼミ生とあわせると１７０人。日本最大のゼミです。瀬戸岡ゼミは、量ばかりでなく、質も日本一をめざして、今後とも頑張っていきます。

（古谷勇樹ほか４年生一同）

ゼ　ミ　紹　介

中済ゼミ

経済学科経済学部　中済ゼミ３年　田島　摂

私たちのゼミは現在、中済光昭准教授の指導の下、４年生４名、３年生８名、２年生８名の計２０名で活動をしています。ゼミの内容としては各自がテーマを設定し、インターネットの情報源をアクセス、あるいはメールでコミュニケーションをとりながら、各々、学習を進めています。３年生と２年生が共同で行うサブゼミでは、グループに分かれテーマを設定し３年生が中心となり、研究を進めました。今年のテーマは「アウトレット」、「ネット広告」、「商店街」にそれぞれ設定し、１１月には『第５１回日本学生経済ゼミナール関東部会中央大学大会』に参加しました。本大会を終え、他大学の学生との討論や大会に向けての研究活動を通して様々な反省点があったものの、非常に貴重な経験をすることができました。この経験を２年生は来年度の大会に向けて、３年生は後輩たちに伝えることはもちろん、４年時に取り組む自身の卒業論文の研究作業へ繋げていきたいと思います。

また、３年生は１２月１日に就職活動をスタートしました。各種機関で報じられているように、今年は例年より２ヵ月遅れでのスタートとなり、私を含め、戸惑いながらも就職活動を始めております。もちろん、ゼミ活動との並行をした作業となりますが、どちらにも力を入れ、両立を図っていきたいです。次回の報告の際には、『全員が内定を得ることができました』と報告することを目標に頑張りたいと思いますので応援のほど、よろしくお願い申し上げます。

『第５１回日本学生経済ゼミナール関東部会中央大学大会』にて（１１.１１.１３）

松本ゼミ

経済学部商学科２年　小山　啓介

松本ゼミは設立５年目で、今年は第７期生を迎えます。松本ゼミの研究内容は、主にＮＰＯ（非営利組織）に関するものです。２年次に、ＮＰＯ団体へ訪問し、インタビュー調査を行うことによって、ＮＰＯの事業内容やその課題について学びます。３年次は、今年は全員で「東日本大震災と市民社会」という論集を作成すると同時に、経済に関する時事問題についても調べ、ディスカッションも行っています。４年次にはその集大成として卒業論文をまとめます。ゼミで研究してきたことは、年２回実施されるゼミ内プレゼン大会で発表を行います。

松本ゼミは、課外活動も盛んです。東京おもちゃ美術館や世田谷アートフリマというイベントのスタッフをしたり、用賀商店街振興組合との協働事業を行ったりしています。

松本ゼミは、ゼミ生有志によって「用賀部」という部活動を設置しています。用賀部の活動は「放送チーム」と「編集チーム」の２種類に分かれています。放送チームでは、毎週金曜日にUstreamを利用した“ようが＊アワーズ”というインターネット放送を行い来年には放送１００回目を迎えます。用賀地域の旬な情報を伝えることによって、用賀の地域活性化に継続的に取り組んでいます。編集チームは、用賀商店街の情報を学生目線で紹介した“YOGA-R”というフリーペーパーを年に２回発行させていただいています。

その他に、様々な大学との交流会も行っています。２０１１年８月には、仙台において、立命館大学と宮城大学と合同ゼミ合宿を行い、１２月には、京都において立命館大学とさらに研究を深めるためのフィールドワークを行いました。

松本ゼミは、以上のように地域やＮＰＯ、そして他大学との課外活動が頻繁に行われるため、学年の横の繋がりはもちろん、縦の繋がりも強いのが特徴です。先生や先輩から学べることも多くたくさんの経験ができ、松本ゼミは大学生活になくてはならないものとなっています。

2011年度経済学部奨学論文の審査結果のお知らせ

経済学部設立６０周年記念事業より開始された経済学部奨学論文制度も本年で３年目を迎えました。本年度の奨学論文の審査結果をお知らせします。

【審査結果】

１．本年度は、特選に該当する論文はありませんでした。

２．入選として、以下の５編の論文が選ばれました。

①小山耕司（商４）
「第三次国際フード・レジームの分析及び日本における諸影響」

②内山翔嗣（商４）
「公立学校教員の労働実態」

③深江悠里（経４）、他３名
「多様化するサービスエリア」

④田中夢（現４）
「ソーシャルキャピタルの可能性ー地域コミュニティの再生」

⑤岸倫太郎（商４）、他４名
「戦略的ＣＳＲの普及阻害の要因とその克服のアプローチーマイケルE.ポーターのＣＳＶ概念を手掛かりとして」

３．佳作として、１２編の論文が選ばれました。

同窓会事業報告書

（時　平成19年9月30日　至　平成23年11月5日）

１．経済学部同窓会総会の開催
第６回総会を平成２３年１１月５日（土）に開催した。

２．経済学部ゼミ対抗ソフトボール大会の支援
経済学部同窓会は毎年１０月に開催される「経済学部ゼミ対抗ソフトボール大会」を第１回大会から支援している。今期も大会を支援し、優勝、準優勝、３位のチームに賞状と賞品を授与した。

３．経済学部創立６０周年記念事業の後援
経済学部創立６０周年記念事業として平成２２年１１月１４、１５日に開催されたシンポジウム、記念講演（東京大学名誉教授　宇沢弘文氏）を後援し、６０周年記念DVDの買い上げをおこなった。

４．ホームカミングデーでの広報活動
ホームカミングデーでは経済学部同窓会の受付を置き、入会案内、同窓会報、『経済学論集』を配布した。懇親会場には「商経学部・経済学部卒業生のコーナー」を設け、卒業生の便宜をはかった。

５．経済学部同窓会長賞の授与
経済学部同窓会は卒業式当日に学業、人物ともに優れた学生を表彰している。平成２２年度も経済学科、商学科、現代応用経済学科の各学科３名の学生に賞状と記念品（万年筆）を授与した。

６．卒業生への入会案内
卒業式当日、卒業生全員に入会案内を配布し入会を勧誘した。

７．同窓会報の発行
同窓会報「こまざわ経済通信」（年２回）を発行した。また第２６号（平成２３年３月３日）よりＡ４版カラー印刷にした。

８．幹事会の開催
幹事会を毎年４回開催した。同窓会報の編集・発行業務、総会運営、経済学部の支援、組織の充実発展等について審議決定した。

第6回（第7期）経済学部同窓会役員

会　長：大場やすのぶ
副会長：伊藤　吉次、幸野　保則、友松　憲彦
相談役：谷敷　正光
監　査：安田　京子

総務部会	催事部会	広報部会	財務部会	組織部会
伊藤吉次	斉藤　但	佐藤　均	勝山　強	松下誠之
張替　仁	北沢文彦	松本典子	加藤　慎	伊藤文雄
石塚　武	森谷盛生	水間伸三	池　良一	
水上　昭	中島　隆	大沢隆司	三田佳男	
柚木駿一		浜門真吾	安田京子	
		川合竜一		

会　計　報　告

第３期（平成１７・１８・１９年度）の決算をご報告いたします。

会報「こまざわ経済通信」の発行、経済学部の教育活動への支援等で繰越金が少なくなっております。新会員の加入に力を注いでおりますが、既会員の皆様方に会費納入のご協力をお願いするところです。

なお、会費納入方法が変わりましたのでお間違えのないようお願いいたします。

平成17年度～19年度（第五期）決算書

（収入の部）　（単位：円）

科　目	予算額	17年度決算額	18年度決算額	19年度決算額	第五期決算額	差　異
前年度繰越金	4,697,852	4,697,852	4,475,389	4,259,103	4,697,852	0
年会費	1,560,000	558,000	566,000	570,000	1,694,000	134,000
前受金会費	—	—	—	16,000	16,000	16,000
懇親会費	600,000	0	0	0	0	△ 200,000
寄付・援助金	200,000	0	0	0	0	△ 200,000
雑収入	50,000	39	1,872	1,388	3,299	△ 46,701
合計	7,107,852	5,255,891	5,043,261	4,846,491	6,411,151	△ 696,701

（収出の部）　（単位：円）

科　目	予算額	17年度決算額	18年度決算額	19年度決算額	第五期決算額	差　異
会議費	1,200,000	23,819	129,300	172,885	326,004	△ 873,996
事業費	5,236,000	748,821	653,662	1,151,257	2,553,740	△2,682,260
通信費	1,300,000	172,440	156,880	295,760	625,080	△ 674,920
印刷製本費	1,500,000	215,859	168,079	460,802	844,740	△ 655,260
支払報酬料	600,000	2,000	36,400	20,000	58,400	△ 541,600
ソフトボール開催費	1,200,000	230,057	143,416	113,754	487,227	△ 712,773
会長賞経費	450,000	127,230	112,977	112,902	353,109	△ 96,891
雑費	186,000	1,235	35,910	148,039	185,184	△ 816
消耗品費	5,000	7,862	1,196	28,711	37,769	△ 12,231
予備費	156,000	—	—	—	—	0
	21,852					△ 21,852
次年度繰越金	600,000	4,475,389	4,259,103	3,493,638	3,493,638	2,893,638
合計	7,107,852	5,255,891	5,043,261	4,846,491	6,411,151	△ 696,701

（注）予備費 156,000円の使用額は次のとおりである。
　　雑　費 156,000円

監査報告書

駒澤大学経済学部同窓会
　会長　大　場　康　宣殿

私監査人は、駒澤大学において平成１７年１０月１日より平成２０年９月３０日までの各事業年度につき、提出された証拠書類並びに決算書に基づき、会計監査を実施しました。

監査の結果、いずれも適法にしてかつ正確に処理されていると認めました。

平成２３年９月５日

監査　川　崎　　諭